

2021年度 ルネサンス大阪高等学校 学校関係者評価

氏名:三溝 雄史

ルネサンス大阪高等学校との関係:外部スクールカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）

評価日時:2023年2月22日

【学校自己評価に対するコメント】

本校でスクールカウンセラーとして勤務しております。職種上、生徒指導や教育相談を中心に評価を致します。

文部科学省の調査によりますと、通信制高校には、発達障害等により支援が必要な生徒が、全日制高校よりも相対的に多く在籍していることがわかっており、発達障害等の困難を抱える生徒へのサポートも重要です。本校は、グループ校とともに、主に発達障害をもつ児童生徒を対象とした放課後等デイサービス事業を全国に展開している会社と提携をして、本校の生徒の学業への取り組みや自立を、専門機関と協力しながらサポートしています。校内では、教職員に対して発達障害に関する研修をスクールカウンセラーが行ったり、また、保護者の協力も得ながら、生徒の情報を細やかに把握して、校内で情報を共有しています。さらに、高校卒業後のサポートとして、新たな進路に踏み出した生徒に関して、情報を引き継ぐ体制を作りも必要と考えられます。また、教室にモニターが設置されており、パワーポイントやインターネット動画などを有効に利用して生徒が理解を深める教育環境を整えています。情報教育として、発達障害の生徒に対して、情報機器を効果的に使いこなして学業に取り組めるような工夫を、教員それぞれができる指導力の向上が求められています。

本校では、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置しており、心理や福祉の視点も加えて、チーム学校として相談体制をつくっています。文部科学省の調査によりますと、令和2（2020）年度の小中高校から報告された児童生徒の自殺者が、統計調査を始めた1974年以降最多となったことがわかっており、精神の不調をきたす生徒へのサポートも重要となっています。医療的な支援が必要と考えられる生徒に対して、医療機関の情報を提供したり、また、受診している生徒には、生徒や保護者にも確認をしながら、学校と医療機関との連携をより緊密にしていくなど、医療的な視点を加えてサポートしていくことも必要と考えられます。

本校には、小中学校で不登校であった生徒や、全日制高校で不登校になり転入してきた生徒も多く在籍しています。入学や転入当初は、対人関係や集団参加に困難を抱えていた生徒でも、学校のサポートを受けながら高校生活を過ごしていくにつれて、元気がでてきて、人と関わりたいという気持ちが生じてきたり、やりたいことをするために行動を起こそうとする生徒もいます。学業面の指導だけでなく、それぞれの生徒のペースを温かく見守り続ける姿勢を大切にする教員間の意識も、これまで以上に大事にしていただけましたらと思います。